

宋與謝野晶子全集

第一卷 歌集 第二卷 歌集



定本與謝野晶子全集 第一卷

講談社



全集子晶野謝與 本定

第一卷 歌集一

昭和五十四年十一月二十日 第一刷發行

定價 二千九百圓

著者 與謝野晶子

發行者 野間省一

發行所 株式會社講談社

東京都文京區音羽 二二三—三

郵便番號二三 振替東京八一五〇

電話東京(〇三) 五五—三三(大代表)

組版 株式會社熊谷印刷

印刷所 多田印刷株式會社

製本所 大製株式會社

落丁本・亂丁本はお取替えいたします
© 與謝野 光 一九七九年

凡 例

- 一、歌集本文の歌は初刊の単行本を底本とし、拾遺は初出誌・紙より収録した。
- 二、本文（拾遺を含む）、脚注ともに、漢字・かな使用の表記は原本に依拠した。
- 一、校訂は初出誌・紙、および新潮社版、改造社版を使用した。
- 〔初〕……初出誌・紙（書簡も含む）を示す。
- 〔新〕……新潮社版『晶子短歌全集』（大正八〜九年刊）を示す。
- 〔改〕……改造社版『與謝野晶子全集』（昭和八〜九年刊）を示す。
- 一、本文中の誤植と考えられるものは※印をつけ、↓印で正しいものを示した。著者の訂正などによる典拠の明らかなものは、（ ）を付し、訂正の掲載誌・紙名、発表年月を示した。
- 例 ※やははだ↓わがはだ（明星 明34・9）
- ただし、〔初〕〔新〕〔改〕については、誤植と思われるものは原則として正した。
- 一、〔初〕における表記の意味は次の通りである。
- 例 黒髪―小天地 明34・8（雑誌「小天地」の明治三十四年八月号に黒髪の題名で収載。）
- 一、校異は脚注として付した。
- 例 〔初〕みづあふひ―明星 明37・8(2)(3)銅にはあれど御佛は(2)(3)は第二句第三句を示す。ただし、校異が三句以上にわたるものは全句を記した。）
- 一、〔初〕では初出誌・紙以外の出典を◎で示したものもある。
- 一、〔新〕〔改〕初版同は新潮社版、改造社版が底本と同じで〔改〕新同とあるのは、改造社版が新潮社版と同じであることを示す。
- 一、〔新〕〔改〕などがない場合は、新潮社版、改造社版に採られていないことを示す。
- 一、脚注の通し番号は底本における歌の順序を示す。

目次

みだれ髪

明治三十四年

臙脂紫

蓮の花船

白百合

はたち妻

舞姫

春思

小扇

明治三十七年

みじか夜

七

壹

三

四

五

六

七

一

笹舟…………… 六

夏ばな…………… 七

梔花染…………… 八

うつくし…………… 九

朝寝髪…………… 一〇

毒 草…………… 一〇九

明治三十七年

金翅…………… 一一

やつれぎぬ…………… 一二

こほろぎ…………… 一九

緋芍薬…………… 二三

自嘲…………… 二四

戀 衣…………… 二五

明治三十八年

曙染……………二七

舞姬……………二九

明治三十九年

夢之華……………一五

明治三十九年

常夏……………二四

明治四十一年

拾遺……………二九

明治二十八年……………二九

明治二十九年……………二九

明治三十年……………三〇

明治三十二年……………三〇

明治三十三年	三〇三	逸見久美	解説
明治三十四年	三三三		
明治三十五年	三〇九		
明治三十六年	三六三		
明治三十七年	三六六		
明治三十八年	三七〇		
明治三十九年	三七七		
明治四十年	三六九		
明治四十一年	三六六		
		木俣修	解説

み
だ
れ
髪

膳脂紫

夜の帳にささめき盡きし星の今を下界の人の鬢のほつれよ

- 1〔新〕夜の帳にささめきあまき星も
居ん下界の人は物をこそ思へ
〔改〕(2)ささめきあまき

歌にきけな誰れ野の花に紅き否むおもむきあるかな春罪もつ子

- 2〔初〕朱絃―明星 明34・5

〔新〕くれなゐを誰れ野の花に否む
〔改〕(1)戀の心を誰れなじるべき
〔改〕(1)歌に聞けな

髪五尺ときなば水にやはらかき少女ごころは秘めて放たじ

- 3〔新〕(4)(5)少女ごころを見んと人寄
る
〔改〕初版同

血ぞもゆるかさむひと夜の夢のやど春を行く人神おとしめな

- 4〔初〕朱絃―明星 明34・5 (4)春を
往く人

〔新〕神の名によりて假さまし夢の
やど我がかひなとは思ひ給ふな
〔改〕(5)神おとしむな
5〔初〕朱絃―明星 明34・5
〔新〕もゆる戀はたあやまちも我が

その子二十櫛はたちにながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな

堂の鐘のひくきゆふべを前髪きりの桃のつぼみに経たまへ君

紫にもみうらにはふみだれ簍ぼこをかくしわづらふ宵の春の神

臙脂色あんじいろは誰にかたらむ血のゆらぎ春のおもひのさかりの命いのち

紫の濃き虹説きしさかづきに映る春の子眉毛まゆげかぼそき

紺青こんじやうを絹にわが泣く春の暮やまぶきがさね友歌ともねびぬ

まゐる酒に灯ひあかき宵を歌たまへ女をんなはらから牡丹に名なき

ごとく爲さまし桃ももの花なつかしき
〔改〕初版同

6 初黒髪—小天地 明34・8 (1)そ
の子はたち(3)黒かみの

〔新〕(1)わが二十
〔改〕初版同

7 新鐘の音の低きゆふべを前髪に
おちてこぼれてわななける花
〔改〕初版同

8 初「おち椿」明星 明34・3 (3)み
だれ箱を

〔新〕紫の灯にもみうらのはふ簍はと
それをめぐれる春の夜の神

9 新「(1)あ臙脂」
〔改〕初版同

10 初「朱紋」明星 明34・5 わらさ

きの濃き虹ときしさかづきに映る
春の子まゆ毛かぼそき

〔新〕紫の濃き虹なるやさかづきに
映るは淡きわが眉なるや

11 初「金翅」明星 明34・7 (3)春
のくれ山吹がさね

12 初「金翅」明星 明34・7

〔新〕さかづきに灯あかき宵を歌た

海棠にえうなくときし紅^{べに}すてて夕雨^{ゆふさめ}みやる瞳^{ひとみ}よたゆき

水にねし嵯峨^{さあや}の大堰^{おほゐ}のひと夜神^{よがみち}組蚊帳^{がや}の裾の歌ひめたまへ

春の國戀の御國のあさぼらけしるきは髪^{かみ}か梅花^{ばいけわ}のあぶら

今はゆかむさらばと云ひし夜の神の御裾^{みすそ}さはりてわが髪ぬれぬ

細きわがうなじにあまる御手^{みて}のべてささへたまへな歸る夜の神

清水^{きよみづ}へ祇園^{ぎおん}をよぎる櫻月夜^{さくらづきよ}こよひ逢ふ人みなうつくしき

秋の神の御衣^{みけし}より曳く白き虹ものおもふ子の額に消えぬ

まへ身を牡丹とも思へる人ぞ

〔改〕初版同

13〔初〕金翹―明星 明34・7 海棠に
要なくときし紅^{べに}すてて夕雨^{ゆふさめ}見やる
ひとみよたゆき

〔新〕海棠の下にときたる紅^{べに}すてぬ
いと長き文書きやりしものち

14〔新〕水のおと嵯峨^{さあや}の大堰^{おほゐ}の夏の夜
の組蚊帳^{がや}の裾にひびく涼しさ

〔改〕(1)水に寝し(5)歌秘めたまへ

15〔新〕(2)戀の世界の(4)しるし御髪^{みかみ}の
〔改〕初版同

〔改〕初版同

16〔初〕おち椿―明星 明34・3 (1)い
まはゆかむ

〔新〕秋の神の御衣^{みんぎ}の裾に觸れし髪
ぬれぬと云ひぬ朝の涙を

17〔初〕おち椿―明星 明34・3 (1)ほ
そきわが(4)ささへ給へな

〔新〕(5)夜あくることを

〔改〕初版同

18〔初〕朱絃―明星 明34・5

〔新〕初版同

〔改〕(3)さくら月夜

19〔初〕紫―明星 明34・1 (2)みけし
より曳く(4)ものおもふ子が

經^{きやう}はにがし春のゆふべを奥の院の二十五菩薩歌うけたまへ

〔新〕初版同
〔改〕初版同

20〔初〕春夢―半秋 明 34・2 (5)うたう
けたまへ ㊦おち椿―明星 明 34・3

〔新〕(1)經は苦し
〔改〕初版同

山ごもりかくてあれなのみをしへよ紅^{べに}つくるころ桃の花さかむ

21〔初〕鐵幹宛書簡―明 34・3 下句推
定(2)かくてあれなと ㊦朱絃―明星

明 34・5 (4)紅盡くるころ

とき髪に室^{むろ}むつまじの百合のかをり消えをあやぶむ夜^よの淡紅^{とまぎらう}色よ

〔新〕山ごもりかくてあらんと云ひ
給ふ紅盡くるころ桃の花さかん
22〔改〕(2)かくてあれとの花さかん
〔新〕くろ髪に香のむつみよる百合
の花男の息のたぐひならまし

雲ぞ青き來し夏姫^{なつひめ}が朝の髪うつくしいかな水に流るる

23〔新〕雲青し來し夏姫が朝の髪うつ
くしきかな水にながるる

〔改〕(2)來し夏姫の(4)うつくしきか
な

夜の神の朝のり歸る羊とらへちさき枕のしたにかくさむ

24〔初〕紫―明星 明 34・1 (2)朝のり
かへる

〔新〕(3)馬とらへ
〔改〕(2)(3)朝乗り歸る馬とらへ

みぎはくる牛かひ男歌あれな秋のみづうみあまりさびしき

25〔初〕清怨―明星 明 33・10 水際^{みぎは}く
る牛かひ男うたあれな秋の湖^{うみ}あ

まりさびしき
〔新〕(1)みぎは來る

やは肌のあつき血汐にふれも見でさびしからずや道を説く君

26〔初〕清怨―明星 明 33・10 (2)あつ
き血しほに

許したまへあらずばこそ今のわが身うすむらさきの酒うつくしき

〔改〕〔新〕初版同
〔改〕〔3〕觸れも見で
27〔初〕おち椿—明星 明34・3 (1)ゆるし給へ(4)うす紫の

わすれがたきとのみに趣味をみとめませ説かじ紫その秋の花

28〔初〕朱紋—明星 明34・5 (1)忘れがたき
〔新〕わすれえぬとのみに涙ながしめ説かじ紫その秋の花

人かへさず暮れむの春の宵ごこち小琴にもたす亂れ亂れ髪

29〔新〕人とある暮れ行く春の宵ごこち琴にこぼるる亂れ髪かな
〔改〕〔2〕暮れゆく春の(5)亂れたる髪
30〔初〕おち椿—明星 明34・3 手まぐらにびんのひとすぢきし音を小琴とききし春の夜の夢
〔新〕初版同
〔改〕初版同

たまくらに鬢のひとすぢきし音を小琴と聞きし春の夜の夢

31〔初〕金翹—明星 明34・7 (3)〔4〕草のかどよ思はれがほの

春雨にぬれて君こし草の門よおもはれ顔の海棠の夕

〔新〕春雨にぬれて君こし草の門おもはれがほの人と海棠
〔改〕〔5〕海棠のゆふべ
32〔初〕おち椿—明星 明34・3 小草云ひぬ『醉へる涙の色にさかむそれまでかくてさめざれな少女』

小草いひぬ『醉へる涙の色にさかむそれまで斯くて覺めざれな少女』

〔新〕小草いふ醉へる心の花つけんそれまで斯くて覺めざれな少女
〔改〕〔1〕小草云ひぬ

牧場いでて南にはしる水ながししても緑の野にふさふ君

33〔初〕黒髪—小天地 明34・8 (2)南へはしる
〔新〕牧場より南にはしる水ながし

春よ老いな藤によりたる夜の舞殿まひどののならぶ子らよ束の間つか老いな

雨みゆるうき葉しら蓮はす繪師の君に傘まゐらす三尺の船

御相いとどしたしみやすきなつかしき若葉わかば木立だちの中の盧遮那ろしやな佛

さて責むな高きたかにのぼり君みずや紅の涙なみだの永劫えうこくのあと

春雨にゆふべの宮みやをまよひ出でし小羊君こひつじきみをのろはしの我れ

ゆあみする泉の底の小百合花さゆりばなはたち二十の夏をうつくしと見ぬ

みだれごちちまどひごちちぞ頻なる百合ふむ神に乳ちちおほひあへず

緑の野邊を風とさまよふ

〔改〕初版同

34〔初〕黒髪―小天地 明34・8

〔新〕春よ老ゆな藤に倚りたる舞殿

にゐならぶ子らよ永久老ゆな
〔改〕(1)春よ老ゆな(5)とこしへ老ゆな

35〔初〕金超―明星 明34・7(2)浮葉

しら蓮

〔新〕(3)(4)めでて行く君とわれとの
〔改〕(1)雨見ゆる(5)七尺の船

36〔新〕初版同

〔改〕初版同

37〔改〕(3)君見すや

38

39〔初〕黒髪―小天地 明34・8(3)(4)

〔新〕ゆあみする泉の底に百合白く

ひらくと見たる二十の姿
〔改〕初版同

40〔新〕(4)(5)若き二十の春のひと時

くれなるの薔薇^{ばら}のかさねの唇に靈の香のなき歌のせますな

旅のやど水に端居^{はしる}の僧の君をいみじと泣きぬ夏の夜の月

春の夜の闇^{やみ}の中^{なか}くるあまき風しばしかの子が髪に吹かざれ

水に飢ゑて森をさまよふ小羊のそのまなざしに似たらずや君

誰ぞ夕^{ゆふ}ひがし生駒^{いこま}の山の上のまよひの雲にこの子うらなへ

悔いますなおさへし袖に折れし劔^{つるぎ}つひの理想^{りよう}の花に刺^とあらじ

額^{なで}こしに曉^{あけ}の月みる加茂川の淺水色^{あさみづいろ}のみだれ藻染^{もぞめ}よ

41〔新〕(2)薔薇ぞと思ふ(4)わが歌なら
〔改〕(4)(5)靈の香のなき歌載せま
すな

42〔新〕(3)僧をわれ
〔改〕初版同

43〔新〕(4)(5)しばし我身を専らに吹け
〔改〕初版同

44〔初〕清怨—明星 明33・10
〔新〕(2)野をさまよへる
〔改〕初版同

45〔初〕おち棒—明星 明34・3
〔新〕ゆく春やひがし生駒の山の上
のただよふ雲にこの身うらなへ
〔改〕(1)誰ぞ夕^{ゆふ}

46〔初〕おち棒—明星 明34・3

47〔新〕曉の月君と見るなり加茂川の
水によく似しうす衣して